

# みくくに



〈遠足・屋島山上にて〉

## 2025年 標語聖句

### [希望の計画]

あなたたちのために立てた計画・・・  
それは平和の計画であって、災いの計画ではない。  
将来と希望を与えるものである。

エレミヤ書 29章11節

社会福祉法人 みくに園

障害者支援施設 みくに成人寮

TEL: (0879) 68-3104 FAX: (0879) 68-3920

〒761-4661 香川県小豆郡土庄町豊島家浦902番地1

HP: <http://www.teshimamikunien.com>

# あなたを“聴く”

理事長

日本音楽療法学会 認定音楽療法士

山田 久美

あなたは涙を流しながら童謡『夕焼小焼』を私に歌ってくれましたね。大切な人達との幸せな思い出を歌に乗せて。

あなたと出会う前、私は20年間ピアノ教師の仕事に従事していた。一流の音楽大学に優れた学生を送り出し、コンクールで優秀な成績を収めるピアニストの育成に日々心血を注いでいた。

ある年のクリスマス、礼拝の奏楽者としてみくに園に招かれた。クリスマス礼拝が終わり、私が体育館でピアノを弾いていると、あなたは私の傍に来て「夕焼け小焼のピアノが聴きたい。」と私にリクエストし、目に涙を浮かべながら何度も歌った。そして、あなたが元気だった子どもの頃の家族との思い出を私に語ってくれた。あなたの歌声が夕暮れに包まれた体育館に響き、二人だけの時間が静かに流れた。音楽の力によって、あなたの心と身体が次第に解放されるのを私は感じていた。どのくらいの時間が流れたであろうか。あなたはそっと涙を拭き、笑顔で私に「ありがとう。」と言って、自室に帰って行った。「私を必要とする人がここにいる。彼女の人生の音楽の物語を一緒に紡ぎたい。」と私の心は揺らぎ、生涯忘れることができないクリスマスとなった。

彼女との出逢いは、それまで技術を最優先に指導してきたピアノ教師の人生を大きく変えた。数年後、私はピアノ教師を辞めて、音楽療法士の資格を取得した。彼女は10年間、毎週私の音楽療法に通ってくれた。重いてんかん発作が頻発しながらも、音楽の時間を一度も休むことは無かった。病気のために長年住み慣れたみくに園を離れる最後の日も彼女は『夕焼小焼』を口ずさんでいた。障がいがあっても音楽と真摯に向き合い、「今このとき」を精一杯に生きることの大切さを彼女の生き方から学ばせてもらった。

耳を澄まして心から「あなたを“聴く”」時、私も障がいを持った方達と共に生かされ、それぞれの人生の物語に参加させていただくのである。

今日もどこかであなたが歌う『夕焼小焼』が聴こえます。お元気で音楽と共にある人生を楽しんでくださいね。



# 一粒の麦

理事長 山田 久美

みくに園は、私の祖父である寺田徳太郎(1899～1979)が豊島に設立した神愛保育園を前身とする。1965年の法人設立以来、キリスト者の熱い祈りと地域の方々に支えられて幾多の困難を乗り越えてきた。福祉の小さな一粒の麦が豊島に蒔かれて60年になる。

いつの時代も、福祉への高い志を持つ法人役員の皆様が、障がいを持った方達とご家族の幸せを願って、みくに園の運営を先導してくださった。

初心を忘れることなく、一粒の麦のように、小さくても周りの皆様に幸せを届けられる法人でありたい。



[法人役員の皆様]

2025年6月14日  
香川県社会福祉総合センター  
特別会議室にて

## 施設内研修

みくに園では、毎年施設内において研修を実施しています。令和7年7月には「虐待防止・身体拘束廃止研修」を開催し、介護支援専門員・介護教員・元香川短期大学教員である田村充氏を講師に迎えました。研修では、日常の支援現場における「グレーゾーン」について、グループごとに事例を出し合いながら検討し、利用者さんの権利を尊重した支援の在り方について理解を深めました。

また、9月には「パワーハラスメント防止」及び「改正育児・介護休業制度に関する研修」を実施し、社会保険労務士の玉井洋次氏より、ハラスメントの定義や介護・育児休業制度の内容について学びました。研修では、「この行為はハラスメントに当たるのか。」を一人ひとりが考え、自分の意見を述べる場を持ちました。その中で、玉井氏から「せっかくなら楽しく働きましょう。」という言葉があり、職員同士が互いに尊重し合う関係を築くことが、利用者さんの安心にもつながるとの認識を共有しました。

みくに園は「虐待やハラスメントを許さない」という方針のもと、定期的に研修を実施し、施設全体で防止への取り組みを進めています。今後も研修テーマを広げながら継続的に学ぶことで、職員一人ひとりの意識と資質を磨き、より充実した支援につなげます。また、誰もが安心して働ける職場環境を整えるとともに、利用者さんやご家族から信頼される施設づくりを目指します。

〈高橋 記〉

## 食欲の秋

### ～みくに製麺オープン～

食欲の秋にぴったりのイベントとして、利用者の皆さんにできたてのうどんを楽しんでいただく1日限定の「みくに製麺」をオープンしました。

当日は、かけうどんをベースに、海老天・大根おろし・とろろ・温泉たまご・コロッケ・から揚げなど、さまざまなトッピングを用意。さらにデザートも3種類準備し、「どれにしようかな」と迷うほどの充実したラインナップでした。

就実大学の実習生さんには、炊きたてのご飯でおにぎりづくりを担当してもらい、可愛らしいおにぎりがテーブルに並びました。

トッピングの種類が多く準備は大変でしたが、利用者さんが興味津々に具材を選び盛り付ける姿に、私たちも思わず顔がほころびました。

利用者さんが嬉しそうに召し上がる姿は、イベントを成功させようと頑張る職員にとって何よりの励みであり癒しとなりました。これからも、他部署と協力し合いながら、季節を感じられる行事を通して、皆の笑顔をつないでいきたいと思います。 〈近本 記〉



## スポーツの秋

### ～交流運動会～

秋空の下、毎年恒例の豊島中学校の皆さんとの交流運動会が開催されました。長年続くこの行事は、みくに園の利用者さんが心待ちにしているイベントのひとつです。

今年も、風船運びや玉入れ、パン食い競争、綱引きなど盛りだくさんの種目で、中学生の皆さんが進行や運営を担当してくださり、会場は活気に溢れていました。

利用者さんは一つひとつの競技に真剣に取り組み、応援にも力が入り自然と拍手がわき起こる場面もありました。さらに、サプライズで、中学生の皆さんが心のこもったリコーダー演奏を披露してくださいました。

豊島中学校の皆さんは7月の夏祭りにも参加し、準備や運営を行ってくださいました。島の学校ということもあり生徒は9名と少人数ですが、一人ひとりがとても思いやりがあり、いつも一生懸命に関わってくださいます。これからもこの素敵なつながりを大切に、皆さんとの交流を長く続けていきたいと思います。 〈高橋 記〉





## 一般棟：10月8日 屋島散策

屋島山上から眺める青い空と海に、心も晴れやかになりました。



## 秋の遠足

### 高齢者棟：11月5日 瀬戸大橋記念公園

美味しいご馳走に大満足！

心地よい海風に包まれながら楽しいひとときを過ごしました。



## 実習生と秋のひととき

秋のイベントが盛りだくさんのみくに園。この季節は、実習生の皆さんと一緒にハロウィンやみくに製麺、ボウリング大会、運動会、外出などを楽しみました。ハロウィンでは、利用者の皆さんも思い思いの衣装を身にまとい、ゲームで大盛り上がり！

また、外出ではみくに船に乗って高松のショッピングモールへ出かけ、買い物や食事を楽しみました。

利用者さんと実習生さんとの交流が深まり、楽しい秋のひとときを過ごしました。  
〈柴田 記〉



### \* 行事 \*

- 10月 8日 遠足（一般棟）
- 10月14日～23日 実習生受け入れ（就実大学）
- 10月17日 ハロウィン
- 10月18日 豊島家浦地区秋祭り
- 10月22日 交流運動会（豊島中学校）
- 11月 5日 遠足（高齢者棟）
- 11月19日 インフルエンザ予防接種
- 12月 クリスマス会

### 新職員紹介



中島 大

所属：一般棟



堀本 順一

所属：一般棟

よろしくお願いいたします！



豊島家浦地区秋祭りの太鼓台がみくに園に来ました！

### \* お知らせ \*

この度、みくに園の封筒が新しくなりました。やさしいピンク色に紺色の文字が映えて、とても上品でかわいらしいです。皆様のお手元に届く際に、少しでも温かさを感じていただければ嬉しいです。

### 編集後記

豊島の秋もいよいよ深まり、ひんやりとした風を感じる季節となりました。先日は木枯らし一号も吹き、冬の足音が少しずつ近づいてきています。今年も、みくに園では利用者の皆さんと共に、楽しい時間を重ねることができました。一年を振り返ると、小さな一歩や些細な出来事の中にも、利用者の皆さんの成長や新しい発見がありました。その一つひとつが、私たちの喜びとなり、支えとなっています。

新しい年も、利用者の皆さんが生き生きと過ごせますよう、職員一同力を合わせ取り組んでまいります。引き続き温かいご支援をよろしくお願いいたします。  
〈高橋 記〉

\* みくにだよりへのご意見をお待ちしています。

E-mail: kgk03317@nifty.com

FAX: 0879-68-3920

みくにだより編集部：（167号 2025年11月発行）